

## 7月21日 一学期終業式 「ギルガメシュ叙事詩」

みなさんは、世界最古の叙事詩(神話みたいなもの)である「ギルガメシュ叙事詩」を知っていますか？紀元前2600年頃のお話で、粘土板(紙なんてない)にくさび形文字で書かれていました。

私は、その中で、実在したといわれる主人公ギルガメシュ王が、神様の使いである森の番人フンババと戦うシーンが心に残っています。結局ギルガメシュ王は、フンババを倒して、レバノン杉という巨木(大きな杉の木)を手に入れます。

私は「あれ？」と思いました。「世界最古の神話でどうして、神様側が負けちゃうのだろう？」

現在、神話の舞台となったエジプトのサッカラでは、階段ピラミッドの土台として大量のレバノン杉が出土しています。また有名なクフ王の太陽の船(43mの木造船)もレバノン杉がなければ作れませんでした。どうやら、エジプトやメソポタミアの人類最古の文明はレバノン杉を伐り出して繁栄したようです。しかし、レバノン杉を伐り尽くしたときに、建設やモノづくりの材料、生活のエネルギーとなる燃料を失い、伐採で樹木を失った森の表土が流れることによって、街や港が埋まってしまうなどの被害が有り、その地に生まれた世界最古の文明は滅んでしまったのではないのでしょうか。

私の「ギルガメシュ叙事詩」との出合いは、中学2年生の夏休みです。「ギルガメシュ叙事詩」をもとにしたコミック漫画「ギルガメシュ」を読んだのです。故石ノ森章太郎氏(50年もTVシリーズが続いている「仮面ライダー」を描いた漫画家)の作品です。ギルガメシュ王のクローンを現代に蘇らせるというSF漫画でした。そして、大学生の時、図書館で本物の「ギルガメシュ叙事詩」の日本語版を見つけて、森の番人フンババの部分を読みました。

最近、熱海で、悲惨な土砂災害がありました。原因は、現在究明中ですが、かつて森だったところの樹木を伐採して埋め立ててしまったのも原因の一つではないかという専門家もいます。また、近年国連が、「SDGs」という、環境問題や貧困、紛争など人類が直面している課題を整理し、持続可能な世界となるように世界が達成すべき目標を立てました。世界が取り組み始めています。

私は、このことから、「ギルガメシュ叙事詩」を思い出したのです。

「ギルガメシュ王が神様に逆らって、森の番人フンババを倒した物語は、人類がレバノン杉を伐りすぎて森を破壊し、世界最古の文明の地を人の住めない土地にしてしまった。そのことへの戒めを、神話として書き留めたものではないだろうか」

熱海の惨劇や「SDGs」の取組から、そう思い始めました。

「森の番人フンババ」の話は、発見された12枚の粘土板のうち、3枚目に書かれていた話です。その他「永遠の生命をめぐる冒険」や「大洪水」などのエピソードが残りの粘土板に書かれています。

私はこの夏休みに、「ギルガメシュ叙事詩」の残りの部分を読んでみようかなと計画しています。

今日で一学期が終わります。通常ではないコロナ禍での学校生活を、皆さんは本当によくがんばりました。特に3年生は、今できる活動を最高のものにしようと、1・2年生を頼もしくリードしました。私は改めて板中生の底力と可能性を感じて、胸が熱くなりました。

今年度の夏休みは34日間。コロナ禍の規制はありますが、昨年度の18日間と比べるとたっぷりあります。

204名の板中生がそれぞれの思いや願い、決意をもって夏休みを迎えることと思います。

みなさん、ぜひ、この長い夏休みには、「夏休みにしかできないこと、普段できないこと」にチャレンジしてみてください。

私は「ギルガメシュ叙事詩」を読みます。皆さんは何にチャレンジしますか？

それでは、安全・健康に気を付けて、楽しい夏休みを送ってください。